

原発 国民理解推進へ

国、来月福井でシンポ

立地道県初 経産相方針受け

西川知事は17日、原発の重要性に対する国民理解に向け、国が3月16日に福井市でシンポジウムを開催すると明らかにした。関西電力高浜原発3、4号機の再稼働の地元同意手続きをめぐり昨年12月、来県した林幹雄経済産業相が全都道府県でシンポジウムや説明会を開くとした方針を受けたもの。同日開会した定例会合の提案理由説明で述べた。

(青木伸方)

経済産業省資源エネルギー庁が主催。昨年11月に大阪、今年1月に東京で開いた政府の2030年の電源構成比率をテーマとしたシンポジウムの一環で、原発立地道県では初めての開催になる。原発比率を20〜22%とした電源構成の内容や原発の重要性などについて専門家らがパネル討論

地方都市も含めて全国で続けるととめた。

していく。福井は原発立地道の一つなので、あらためて理解いただくことは大事」と話している。シンポジウムは毎月24日に名古屋市で開き、3月は高松市や広島市でも検討している。

一方、原子力の県民理解に關して西川知事は「県として広報誌、新聞、テレビなどを活用して、再稼働に至った経緯や考え方について県民に積極的に説明を行っている」と強調した。

高浜原発から30キロ圏内の京都、滋賀を含めた3府県合同の住民避難訓練については「国による調整が前提であり、現在、訓練の実施時期や方法を(国や3府県などで)地域原子力防災協議会の作業部会が検討している」と述べ

する。

会場はアオッサ県民ホールを検討中で、定員は200人規模、入場無料の予定。来週中に資源エネルギー庁のホームページで公表し、参加募集を始める。

資源エネルギー庁の担当者は「今までは大都市圏を中心に開いてきたが、国民理解に向けて

2/18 福井